

特別支援学校

平成23年度

# 教育研究員研究報告書

## 特別支援学校

(聴覚障害・肢体不自由・病弱グループ)

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題設定の理由	23
II	研究の視点	23
III	研究の仮説	25
IV	研究の方法	25
V	研究の内容	26
VI	研究の成果	38
VII	今後の課題	38

## 研究主題

# 個別指導計画をいかした授業づくり ～具体的な指導目標・手だて・評価と授業改善への視点～

## I 研究主題設定の理由

東京都においては、都立特別支援学校における児童・生徒の一人一人のニーズに応じた指導の充実を図るため、平成7年度から「個別指導計画Q&A」等を作成し、個別指導計画に基づく指導を推進してきた。

平成20年3月には、新たな小学校及び中学校の学習指導要領が告示され、その総則において、小学校及び中学校に在籍する障害のある児童・生徒については、特別支援学校等の助言又は援助を活用しつつ、指導についての計画（個別指導計画）等を作成することなどにより、個々の児童・生徒の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うことが明記された。

さらに、平成21年3月に告示された特別支援学校学習指導要領の改訂においては、自立活動のみならず、各教科等の指導に当たっても、児童・生徒一人一人の実態を的確に把握し、個別の指導計画を作成することが示され、全ての教育活動で個別指導計画の重要性が明確にされた。

児童・生徒の障害が重度・重複化、多様化している中で個別指導計画は、障害の状態や特性、特別な教育ニーズ等を的確に把握し、児童・生徒一人一人の実態に応じたきめ細かな指導を図るために作成されるものである。さらに個別指導計画に示された指導目標は、個別指導の場面だけでなく、集団での指導を行う場面においてもいかされていく必要がある。

そこで、本部会では、個別指導計画を個別指導の場面だけでなく、集団での指導の場面でもいかし、指導目標や手だての作成、評価を適切に行っていくために、本部会の教育研究員（以下「研究員」）と称す。）が所属する学校において作成した「個別指導計画」の指導目標等を事例として収集、分析し、適切な指導目標設定のための必要な構成要素を明確にすることとし、具体的な指導目標・手だて・評価がどのように授業改善にいかせるのか明確にした。

## II 研究の視点

個別指導計画の書式の検討や、作成する過程、期間等については、各学校で検討がなされ、各学校の実態に合わせた個別指導計画の書式や活用方法が確立されてきている。

しかしながら、指導目標の設定や手だての記述の仕方などについては、教員の経験による知識が体系化されにくいことが多く、一つの学校内であっても、指導目標や手だての記述内容等を複数の指導者間で共有されにくい現状がある。

そこで本研究では、研究員所属校の個別指導計画等実際に記載された内容を持ち寄り、指導目標を中心に現状分析を行い、「具体的な指導目標」の構成要素及び「指導目標の教員間の共通理解」という、二つの視点を柱に研究を行った。

【研究のねらい】 具体的な指導目標について必要な構成要素を明らかにする。

【研究内容】

基礎研究

5月～6月のテーマ「個別指導計画の現状と課題」

- ・ 研究員所属校(10校)における個別指導計画の書式や活用状況についての現状を把握。各学校で課題となっていることを報告・協議
- ・ 実際の指導場面でいかされる個別指導計画とはどのようなものか、という観点から、各学校に共通する課題を探り出した。

6月～8月のテーマ

「個別指導計画「目標」「手だて」「評価」の現状分析」

- ・ 個別指導計画に示された「指導目標」「手だて」「評価」に焦点を絞った現状分析
- ・ 研究員所属校における個別指導計画の指導目標等について、「適切に書かれている事例」と「検討が必要な事例」をそれぞれ100事例程度収集した。
- ・ 事例のカテゴリー分析を行い、「適切な事例」群と「検討が必要な事例」群に分類分析

研究仮説の設定

- ・ 指導目標が具体的に書かれていると、どのように充実した指導につながるのかについて協議し、研究仮説を設定
- ・ 指導目標に必要な要素を明確にし、「具体的な指導目標」の有効性について、授業研究及びアンケート調査による検証

検証授業及びアンケート調査

9月～12月

- 「具体的な指導目標」を設定した授業の変化を検証
  - ろう学校における自立活動として・・・中学部「自立活動」  
知的障害を併せ有する児童の教育課程の各教科等を合わせた指導として  
・・・小学部「生活単元学習」
  - 知的障害を併せ有する生徒の教育課程における各教科として  
・・・高等部「保健体育」
  - 自立活動を主とする教育課程における各教科として・・・小学部「体育」
- 授業研究前後の主担当指導者（以下「MT」と称する。）及び副担当指導者（以下「ST」と称する。）へのアンケート調査
- 研究員所属校内における任意抽出による「具体的な指導目標」の構成要素を活用して指導目標を設定し、その有効性を確認する調査

研究仮説の検証・評価

研究のまとめ

### Ⅲ 研究の仮説

仮説： 個別指導計画において、指導目標を構成する要素を明確にした「具体的な指導目標」を設定することにより、集団での指導場面でも児童・生徒一人一人の指導目標に応じた適切な手だてや評価が実施され、児童・生徒の目標達成に向けた指導の一層の充実、改善が図られる。

特別支援学校では、児童・生徒一人一人の障害の状況や程度、そして学習上又は生活上の困難の実態によって、指導目標や手だてが設定される。

また、一人の児童・生徒に対して学級担任や教科担任及び一緒に授業を行う教員が指導目標を共有し、評価することが必要である。児童・生徒に関わる複数の教員が、児童・生徒一人一人に対して個に応じた指導を行うため、共通の指導目標が重要となる。さらに、設定される指導目標は、具体的な内容であり、指導目標を読んで、複数の教員が到達目標や手だてを明確に共有できるものでなければならない。

そのため、「具体的な指導目標」の立案と設定のために、指導目標の構成要素を明らかにし、どのような要素があると「具体的な指導目標」であると言え、その指導目標が集団で指導する授業にもいかなるようになるのか、分析・検討をすることにした。

「具体的な指導目標」が設定されれば、一人一人の実態に応じて手だてや評価も具体的になる。さらに、具体的な評価からは、次なる具体的な指導目標が容易に立案できるようになるのではないかと考えた。このような連鎖を繰り返すことで、授業は充実し、改善され、児童・生徒一人一人がもっている能力を集団の授業の中でも最大限に引き出すことができるであろうと考えた。

### Ⅳ 研究の方法

#### 1 事例検証を行い、具体的な指導目標の構成要素を抽出するまでの手順

##### (1) 事例収集及び事例検証の手順

研究員の所属校の中で、関係する学年や教科等の個別指導計画に示されている指導目標、手だて、評価の文章を、指導目標が具体的に示されている例（適切な例）と指導目標が抽象的な例など検討が必要と考えられる指導目標を収集した。

ア それらを整理し、「適切な例」と「検討が必要な例」としての要素を整理する。

イ 「適切な例」に分類された事例を、共通するカテゴリーごとに分類・分析し、同一カテゴリーに含まれる構成要素を抽出する。

ウ そのベン図を基に「適切な指導目標」の事例に含まれる構成要素を分析整理する。

##### (2) 具体的な指導目標の構成要素を抽出する手順

ア 「具体的な指導目標」として分類された指導目標の構成要素を共通するカテゴリーごとに分類・整理（KJ法を活用）して、具体的な指導目標に共通する要素を抽出する。

イ 抽出された指導目標に必要な構成要素を基に、指導目標の文章を校正し、その成果について検討した。

## 2 具体的な指導目標の構成要素の検証手順

### (1) 検証授業の実施とアンケートの実施

- ア 研究員が行う研究授業（全4回）の指導案に、具体的な指導目標の構成要素を導入した目標を作成し、STに共通理解を図った上で研究授業を実施する。
- イ 研究員部会にて授業における指導目標、手だて、評価の有効性を協議・検討する。
- ウ 併せてSTにアンケート調査を実施し、「具体的な指導目標」の有効性を検証する。

### (2) 個別指導計画の見直しの実施とアンケートの実施

- ア 研究員所属校にて、各校の中から任意に協力を得て、具体的な指導目標の構成要素を活用して個別指導計画に記載されている指導目標の見直しを依頼し、指導目標がどのように変容したのか調べた。
- イ ここでも併せて、指導目標の見直し後に、協力者へアンケート調査を実施した。

### (3) アンケートの内容

ア 具体的な指導目標の構成要素を活用した個別指導計画の目標設定について（MT）

(ア) 構成要素を活用し個別指導計画を再考してもらい、構成要素を活用する前と後の目標を記入

(イ) 構成要素があると目標設定や評価がしやすいかを4段階で評価

(ウ) 構成要素についての意見や感想を自由記述で記入

イ 構成要素を活用し設定した目標を基に行った授業について

(ア) ①以前の指導目標と比べ分かりやすかったか②個々の児童・生徒への

指導が明確であったか③個々への評価はしやすかったかを4段階で評価

(イ) ④本時の授業で指導を行いどうだったか⑤抽出された要素はどうかを自由記述で記入

●児童・生徒2割をあげ、上記を参考に目標設定を行ってください。

4要素を活用する前の目標。	4要素を活用し設定した目標。

●以下の質問にお答えください。

①4要素があると目標の設定はしやすかったですか？

1 そう思う ・ 2 だいたいそう思う ・ 3 あまり思わない ・ 4 思わない  
5 その他( )。

②評価はしやすいですか？

1 そう思う ・ 2 だいたいそう思う ・ 3 あまり思わない ・ 4 思わない  
5 その他( )。

③4要素について、ご意見、ご感想をお願いします。(自由記述)。

※調査結果は、教育研究員における研究の目的のために使用します。また、集計・分析にあたっては、学校や個人が特定されることはありません。

図1 アンケート調査内容の一部

## V 研究の内容

### 1 事例検証の過程

(1) 研究員は二つのグループに分かれた。一方は、個別指導計画の教科(教科学習の一例として体育を取り上げた)について、もう一方は特別支援教育全てに共通する自立活動について分析を行った。

(2) 研究員が収集した2グループで約200事例の指導目標を「適切な例」と「検討が必要な例」に分類し整理した。

ア 《「適切な例」の場合》

【体育】

- 一つの指導目標に対し、一つの評価項目があり、指導目標に対して適切な評価がされている。このことについて、本部会では、「1指導目標1評価」と称することにした。
- 指導目標と評価がリンクしている。指導目標と手だてと評価がリンクしている。
- 教科として長期目標が立てられ、それに対応した個別の指導目標が個別に設定してある。
- 評価が指導目標に正対し、次の段階での課題までも記入されている。

【自立活動】

- 指導目標が「1目標1評価」で評価がしやすい。
- 指導目標から、学習内容が分かる（指導目標から、児童・生徒の活動の様子が推測できる。）。
- 指導目標が具体的であり、評価が指導目標に正対している。
- 指導目標に数値設定がされていたり、指導内容を絞ったりして記述されている。

イ 《「検討が必要な例」の場合》

【体育】

- 指導目標が教科としての一律の目標になっている。
- 指導目標や手だてが具体的に記述されていない。
- 指導目標に対して手だてが不適切である（児童・生徒の実態に適していない。）。
- 指導目標にリンクしていない評価が記述されている。
- 評価の内容に、指導目標の内容が繰り返されていたり、児童・生徒の活動の様子だけが表記されていたりする。
- 指導目標の一文の中に複数の指導目標が設定されているため、どの指導目標について、評価しているのか不明確になっている。

【自立活動】

- 簡略化しすぎていて抽象的な内容になっている。
- 指導目標の要点が分かりにくい（児童・生徒に期待される活動の様子などが含まれている。）。
- 指導目標が具体的でないため、手だてが明確でない。
- 手だての内容の中に、評価として記されるべき内容が含まれている。

(3) 前述の(2)で指摘された内容について、更に分析・整理し、適切な指導目標の共通した要素を整理した。

- ① 指導目標と評価の関連性が明確に読み取れる。
- ② 指導目標・手だて・評価の三つの関連性が明確に読み取れる。
- ③ 指導目標が具体的に記述されている。

#### (4) 三つの判断基準

(3) ①から③の内容を再整理のための基準とし、「①指導目標と評価がリンクしている」「②指導目標・手だて・評価がリンクしている」「③指導目標が具体的である」の категорияに、200事例を再度分類・整理した。

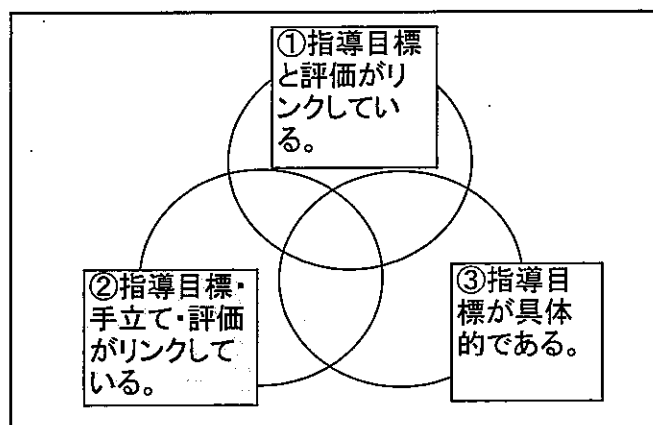


図2 カテゴリー分析のためのベン図

#### (5) ベン図の判断基準の具体項目

ア 「適切な例」の場合(図2参照)

「①指導目標と評価がリンクしている」「②指導目標と手だてと評価がリンクしている」  
「③指導目標が具体的である」

イ 「検討が必要な例」

「①指導目標と評価がリンクしていない」、「②指導目標・手だて・評価がリンクしていない」、「③指導目標が具体的でない」

#### (6) 教科(体育)の分析

「適切な例」のベン図からの分析結果は次のとおりである。

- ・ 「適切な例」として選んだ事例は、ほとんどが指導目標と評価が一致していた。
- ・ 指導目標が具体的に記述されている場合に、指導目標・手だて・評価がリンクしていない事例はなかった。このことは、具体的な指導目標が設定されていれば、手だてと評価がリンクされるケースが多いことを意味していると推察した。

「検討が必要な例」のベン図からの分析結果は次のとおりである。

- ・ 指導目標が具体的でないことが理由で「検討が必要な例」と判断されている事例が大部分であった。
- ・ 指導目標が具体的でないため、手だても具体的に示されておらず、評価が指導目標に対して正対してないケースがあった。

#### (7) 自立活動の分析

「適切な例」のベン図からの分析結果は次のとおりであった。

- ・ 指導目標が具体的である例が86%

「検討が必要な例」のベン図からの分析結果は次のとおりであった。

- ・ 三つの判断基準にそれぞれ該当する割合に大きな差は見られなかった。
- ・ 三つの判断基準のどこにも属さないものが24%あり、評価の表現に課題があったり、評価される児童・生徒の気持ちに配慮していなかったり、具体性に欠ける内容があった。

#### (8) 具体的な指導目標の重要性

ア 「指導目標」が具体的に記述されている例は、「手だて」も具体的になっており、適切



な指導が行われる結果、「評価」もしやすくなり、全体的に分かりやすい記述がされていると考えられる。すなわち、必然的に「指導目標—手だて—評価」がリンクしているケースが多いことが分かった。

- イ 「検討が必要な例」の場合には、指導目標が曖昧であったり、抽象的であったりするため、「指導目標—手だて—評価」リンクしていないものが圧倒的に多いことが分かった。さらに、指導目標が抽象的であると、どのようにも評価できてしまうことから、曖昧な評価しかできないことが分かった。「具体的な指導目標の設定」が改めて重要であることが明確になった。

## 2 具体的な指導目標を立てるために必要な構成要素の抽出過程とその結果

- (1) 教科(体育)と自立活動それぞれに、「適切な指導目標」群の中から、カテゴリ分析(KJ法)で、適切な指導目標に共通する構成要素を抽出した。

その結果、「適切な例」として整理された指導目標には、「①具体的な学習内容を踏まえていること」、「②教科等の評価の観点に関連する内容が示されていること」、「③教員の働きかけに対する表出や行動の程度が示されていること」、「④行動や表出が示されていること」に分類される四つの構成要素(以下「4要素」と称す。)が含まれていることが分かった。

- (2) しかし、「自立活動」の指導目標に関しては、児童・生徒一人一人に目標が設定されるために、行動や活動の根拠と推測される気持ち(快・不快、要求など)を含めた構成要素が入っていることが分かった。この構成要素に関しては、児童・生徒の気持ちや意思を表す言葉を総称して、「関心」・「意欲」・「思考」として表現することにした。

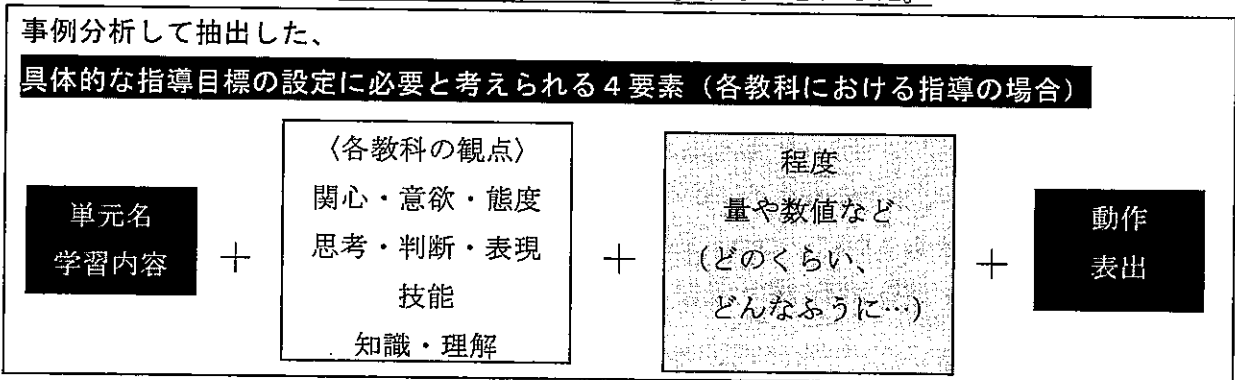


図3 各教科における具体的な指導目標の構成要素

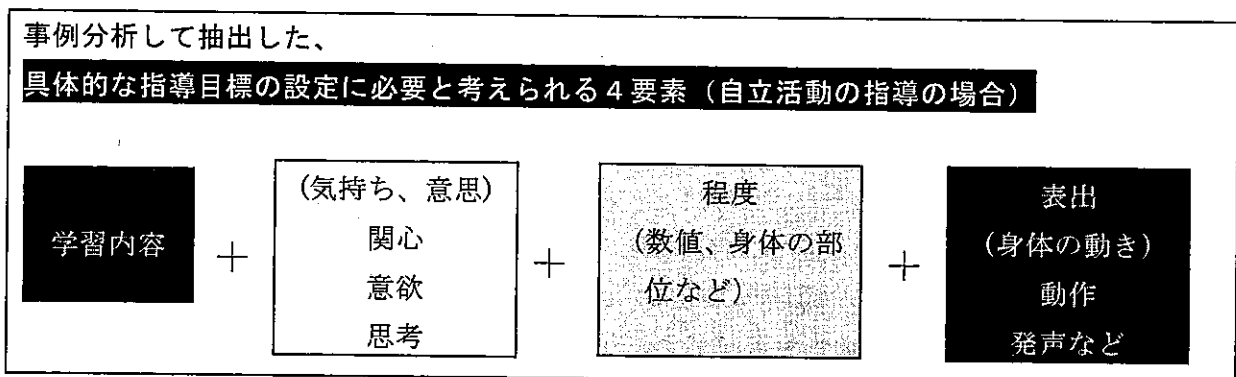


図4 自立活動における具体的な指導目標の構成要素(詳細についてはP39、40を参照)

### 3 検証授業

#### (1) 自立活動

##### A ろう学校の場合

教科等：「自立活動」の時間の指導

対象：中学部2、3年生の生徒5名

単元名：「コミュニケーションアッププログラム」（特に発音や空間認知での学習を必要としている生徒を対象として単元設定している。）

##### 単元の指導目標

- ・ 口や唇、舌を動かすことで、発話器官の機能を高める。
- ・ 触覚や運動感覚と視覚を連動し、空間認知能力の向上を図る。
- ・ 注意して見る力を高める。

具体的な目標設定のための4要素を使ったの目標設定

指導目標の中で、下線の意味は次のとおりです。

\_\_\_\_\_は学習内容、 \_\_\_\_\_は関心・意欲・思考、 \_\_\_\_\_は程度（身体位等）、 \_\_\_\_\_表出を表す。

	構成要素を活用した個別指導計画の目標	目標に関連した主な手だて
生徒A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>口・唇・舌の体操では、舌先を鼻に近付くけたり、あごの方向に下げたりして動かす。</u></li> <li>・ <u>発音練習では、パ行音の一音一音を明瞭に発音するために、息を破裂させるようにして、声を出す。</u></li> <li>・ <u>洗濯ばさみの指運動では、教員のジオボードの見本を見ながら、途中で落とすことなく、見本と同じ位置に五つの洗濯ばさみをはさむ。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目の前で絵カードと教員の動作をゆっくりと見せながら、同じ動きを促す。鏡でチェックさせるようにする。</li> <li>・ 一音一音指文字を交えゆっくりと口の動きを見せて、大きな声で教員の見本を見せる。</li> <li>・ 親指と人差し指の指先を使って洗濯ばさみをつまんでいるかどうかを確認し、できていなければ手を添えて修正する。また、見本を示す際はどの部分にはさめば良いかをゆっくりと示す。答え合わせは生徒と一緒に、見本を提示して行う。</li> </ul>

##### ア MTの自評

今回検証授業を行うに当たり、この授業の中で生徒に何を学ばせたいのか、何を身に付けさせたいのかを明らかにしつつ、また本研究の核となる「4要素」を意識して学習指導案を作成した。個別指導計画の指導目標については、特に「意欲・関心・思考」の部分の検討が難しかった。

##### イ 授業後のアンケート調査から得られたSTの主な意見

###### ①指導目標の共通理解について

日頃より共通理解を図りながら授業を進められているため、この4要素の導入でも大きな変化は感じなかったが、指導目標の確認はしやすくなった。

###### ②評価について

指導目標が具体的であればあるほど、評価が的確にできる。

##### ウ 客観的に授業の様子を見て（協議会での内容）

###### 【1指導目標1評価について】

・ 指導目標に、二つ以上の指導目標が含まれるケースが多い。指導目標の優先順位をつける

ことが必要である。ただし、個別指導計画は学期単位で指導目標を書くため、指導目標をピンポイントで記載するため、短期目標・長期の指導目標を設けるなどの工夫が必要になる。

【4要素を周知させるために】

- ・具体的な指導目標の設定について、4要素をどのように活用していくのか、初めて見聞きした人でも分かるように、記入例などを加えて提示する必要がある。

B 肢体不自由特別支援学校の場合

教科等：生活単元学習

対 象：知的障害を併せ有する児童の教育課程に在籍する小学部4～6年生の児童6名

単元名：「大根の栽培」

単元の指導目標

- ・自分のプランターで野菜を育て収穫することに興味をもつ。
- ・土や種や、スコップなどに自分から触れて、活動しようとする。
- ・活動の流れに見通しをもち、一定時間集中できる持続力をつける。

具体的な目標設定のための4要素を使った目標設定

.....は学習内容、\_\_\_\_\_は関心・意欲・思考、\_\_\_\_\_は程度、\_\_\_\_\_は表出を表す。

	構成要素を活用した個別指導計画の目標	目標に関連した主な手だて
児童A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から進んで水やりや観察を行い、愛情をもって世話をする。</li> <li>・持つ、すくう、入れるなどの活動に合わせて<u>教員と一緒に腕や手指を動かす</u>、動きのイメージをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の見える範囲(右目斜め下方向)に素材や道具を提示する。またそれぞれ手で触り、触覚でも確認できるようにする。</li> <li>・動作補助を行う。</li> </ul>
児童B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員と一緒に取り組む中で活動に慣れ、一人で<u>土や種などに触ったり道具を持って操作する時間を延ばす</u>。</li> <li>・水やりや観察の活動に慣れ、<u>手元に注目しながら水やりをしたり、優しく触れたりする</u>。</li> <li>・持つ、すくう、入れる、つまむなどの活動で、<u>教員と一緒に腕や手指を動かしたりまねをしたりする</u>。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の気持ちに寄り添い、情緒の安定を一番に図りつつ動作補助をする。</li> <li>・一緒に素材や道具を持って操作する中で、一人で持ち、操作し始めたら補助をやめ、すぐに評価することで達成感を味わえるようにする。</li> </ul>

ア MTの自評

本単元では、特別支援学校学習指導要領(知)生活の2段階「(10)身近な自然の中で遊んだり、動植物を育てたりして自然や生き物への興味や関心を深める」ことと、自立活動の4環境の把握「(1)保有する感覚の活用に関すること」、5身体の動き「(5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること」、6コミュニケーション「(1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること」を合わせて学習するよう設定した。

今回検証授業を行うに当たり、「4要素」を考慮して個別指導計画の指導目標を見直すと、以前より児童のどのような表出や気持ちを評価したいのかを再認識するようになり、改めて児童の実態把握や課題の確認を行うことができた。

児童の気持ちや意思を一番に評価したい場合、文章として「単元名や学習内容」や「程度」、「表出」の後に児童の気持ちの動きを表記する場合もあり、4要素の順番についても柔軟に構成できることが分かった。

STとは日頃から児童の自立活動における指導目標を共通理解し合い、手だて等を確認し合っていたが、児童の表出を待つ時間をとることのMTの意図が十分に伝わっていた。

イ STの意見（アンケートを中心に）

アンケート項目「指導目標の分かりやすさ」「支援のしやすさ」「評価のしやすさ」においては、おおむね「だいたいそう思う」といった回答を得た。また自由意見では、「ポイントを絞った具体的な指導目標を設定したことで、必要（最低限）な介助や、待つ場面など、その場で必要な指導がしやすくなった。」「半年児童たちと向き合っていて、児童の関心や意欲の動きを読み取れるようになってきた。年度当初や年次経験が浅いと関心や意欲を読み取って指導目標を作成することは難しいと思う。」という意見があった。

ウ 4要素の活用について（協議会での内容）

【4要素の順番について】

・4要素の順番制について、「学習内容」「関心・意欲・思考」「程度」「表出」の構成で、基本的には順番性をもたせることで、指導目標が読み取りやすくなる。

【4要素の「程度」と「表出」について】

・指導目標における例として、例えば「教員と一緒に腕や手指を動かしたりまねをしたりする」という指導目標には、「程度」と「表出」が一体化されている。自立活動を主とする児童の「程度」と「表出」の表記が難しい。

## (2) 教科

### C 肢体不自由特別支援学校の場合

教科等：保健体育

対象：知的障害を併せ有する生徒の教育課程に在籍する高等部1～3年生の生徒7名

単元名：陸上競技

単元の指導目標

- ・自己記録の向上を目指し、楽しみながら身体を動かす。
- ・選択した種目のルールを理解し、より良い運動方法を考える。
- ・安全や健康を意識し、友達と協力して活動する。

具体的な目標設定のための4要素を使っての目標設定

.....は学習内容、 \_\_\_\_\_は各教科評価の観点、 \_\_\_\_\_は程度（身体位等）、 \_\_\_\_\_表出を表す。

	構成要素を活用した個別指導計画の目標	目標に関連した主な手だて
生徒A	<ul style="list-style-type: none"> <li>陸上競技の30m走では、スムーズなスタートがきれるよう、スタートの合図と同時に、走り出すことができるようになる。</li> <li>陸上競技のビーンバック投げでは、有効試技とするために、投球方向90度のラインの内側に投げることができるようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スタート位置についたら電動車いすを手動に切り替えて、その状態でレバーを握らせ、本人がレバーをしっかり握ってから電動に戻してスタートさせる。</li> <li>投球方向に対して車いすの右側面を向けて停車させる。ビーンバック（緑青色）を使用させる。ビーンバックの布袋の部分を親指と中指、薬指の間にはさむように持たせる。腕を伸ばすとともに大きく振って投げるようにする。</li> </ul>
生徒B	<ul style="list-style-type: none"> <li>陸上競技の100m走では、中間走以降、最高速度を維持し、安定して自己ベストに近い記録（33秒台）で走れるようになる。</li> <li>陸上競技のジャベリックスローでは、リリースのタイミングをつかみ、安定して自己ベスト（6m）に近い記録で投げられるようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>100mの中盤から後半にかけて大きく車いすをこぐために、上体を使って下までこぐように言葉でタイミングを伝える。</li> <li>車いすの背もたれを倒させる。上方斜め45度に投げ出すように手本を見せるとともに、上に向かって投げるように方向を言葉で伝える。</li> </ul>

#### ア MTの自評

今回の検証授業では、抽出された構成要素を活用した個別指導計画の目標と、その目標達成のための手だてが記入された授業記録用紙を、事前にSTへ配布して授業を行った。また、生徒には、生徒用の表現に直した目標と方法を記載したカードを作成し授業の中で活用した。

授業を行なった結果、以前と比べてSTが能動的に指導をしていた。このことから指導目標と手だてが具体的に設定されたことにより、STに生徒の指導目標や手だてが伝わりやすくなり、円滑なチーム・ティーチングを実施するという点で有効性があると考えられる。

#### イ STの感想（アンケート中心に）

検証授業後のアンケートでは、指導目標の分かりやすさ、支援のしやすさ、評価のしやすさのそれぞれを聞いた項目で、全員から有効と判断できる評価結果が得られた（支援のしやすさの項目で1名のみその他の評価）。また、自由記述では「生徒に対し、指導する観点が細かく、やりやすいと感じた。」「（自分が担当した生徒については）指導方法が分かりやすい。」といった肯定的な意見と、「生徒にしっかり伝えて指導することができなかった。」といった意見が出された。

#### ウ STとの連携の検証

授業中におけるSTの行動を次のように記録し、指導目標に基づく適切な指導や支援がなされていたのか検証した。表の中、ST1からST3は、授業の副担当指導者を示す。

生徒A	30m 走	(ST2) 手動にしてレバーを握り、準備ができてから電動に変えることをゆっくりと丁寧に生徒Aに確認しながら指導した。 (ST3) スタート時上記の指導がなされている間に、「もう準備できましたか。」と生徒Aに聞いた。
	ビーンバック投げ	(ST2) 車いすの右側面をラインに合わせて停車した。 (ST2) どのビーンバックを使用するのか、生徒Aに聞いた。

		(ST2) ビーンバッグがしっかり生徒Aの指間に挟まるよう援助をした。 (ST2) どの方向が手を振りやすいのか生徒Aに尋ねた。① (ST2) 「後ろ方向に投げてみたい。」という生徒Aの意見を取り入れ、後ろ方向に投げる試みをさせた。②
生徒B	100m 走	(ST1) 中盤以降、疾走する生徒Bの後に続いて走り、「大きく、大きく。」と生徒Bに声をかけた。
	ジャベリックスロー	(ST1) 「天井に向かって投げよう。」と生徒Bに指導した。 (ST1) 自身が実際に車いすに乗車し、生徒B、他の生徒に対して、模範演技を示した。 (生徒B) 背もたれは自分で下げた。

授業中におけるSTの行動記録の欄に、「上記の行動記録から、ST3は生徒Aへの手だてを理解して、スタート前に確認の言葉をかけている。また、ST1は生徒Bに対して中間走以降のタイミングで「大きく」と言葉をかけている。これらはMTが個別指導計画の中でSTに求めていた手だてである。

さらにST2は生徒Aに対して表中①②で個別指導計画に記載されたねらいを達成するために、効果的な手だてを施している。これらは、4要素を活用し、具体的な指導目標を設定したことにより、集団の授業の中でもその指導目標を確実に認識して指導を行うことができたと考えられる。さらには、具体的な指導目標のもと手だても具体的になったことにより、STがその手だてに沿って効果的な指導していたことが確認できた。

#### D 肢体不自由特別支援学校の場合

教科：音楽/体育

対象：自立活動を主とした教育課程に在籍する小学部1～3年生の児童6名

単元名：寝返り、サーキット運動

単元の指導目標

- ・ 目標物や身体の傾き、担任の言葉かけから、寝返る方向を理解し、その方向へ身体を動かしたり、寝返ったりすることができる。
- ・ 声のする方向へ寝返り等で移動する。シートブランコでは、動きを感じる。

具体的な目標設定のための4要素を使ったの目標設定

.....は学習内容、 \_\_\_\_\_は関心・意欲・思考、 \_\_\_\_\_は程度（身体位等）、 \_\_\_\_\_表出を表します。

	構成要素を活用した個別指導計画の目標	目標に関連した主な手だて
児童A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寝返り運動では、<u>シートブランコを期待して、介助を受け止め、身体を動かすことができる。</u></li> <li>・寝返り運動では、<u>身体の傾き、大人の言葉かけ、シートブランコの場所等から寝返る方向を理解し、その方向へ身体を動かそうとしたり、動かしたりする。</u></li> <li>・寝返り運動では、<u>やりたい気持ちや動いた実感を表情や視線等で表す。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シートブランコの鈴の音と親しい担任の声かけを手がかりに（～省略～）</li> <li>・仰臥位時は、脚は曲げこまないように軽くおさえ、腕を寝返る方向に誘導するように介助する。（～省略～）うつ伏せ時は（～省略～）腰を進む方向へ向けるように介助し、傾斜の谷側から担任が呼びかけたり、シートブランコの鈴を鳴らし、自発的な動きを待つようにする。</li> </ul>

児童 B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サーキット運動では、<u>シーツブランコや担任をめざして、段差や傾斜に合わせて身体を動かし、移動する。</u></li> <li>・サーキット運動では、<u>やりたい気持ちや動いた実感を表情や視線や身振りで表す。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シーツブランコや親しい担任をめざして動けるよう、進行方向から名前を呼びかける。</li> <li>・傾斜の下りに入る時には、四肢移動で入れるよう、両腕を肘たての状態になるよう介助していく。</li> </ul>
---------	---	---

#### ア MTの自評

児童個々の運動や動きに対しての細かい手だてや介助は、学習グループの担任間でこれまでも丁寧に確認を行ってきっていた。4要素を活用したことで児童の「関心・意欲・思考」を中心とした心の動きや、「程度（身体部位等）」が目標に位置付けられ、手だて、介助においても、必要となる手だてや介助が加えられた。研究授業では、「シーツブランコを期待して…」「寝返る方向を理解し…」といった指導目標における児童の意欲、関心、気持ちの動きに十分に配慮をし、STが介助に入る際にも、シーツブランコの鈴を鳴らして、進行方向から呼びかける等の手だてが丁寧に行われていた。また、寝返った瞬間の児童の表情やしぐさを読み取り、「できたね」「すごいね」といった共感的な言葉かけがこれまで以上にされていたと感じた。身体の動きへの具体的な介助方法だけでなく、児童の気持ちの動きの部分についても丁寧な手だてがされたことは、「関心・意欲・思考」の表記がされたことにより促進したと考えられる。

#### イ ST自身の感想（アンケートを中心に）

アンケート項目の「指導目標の分かりやすさ」「支援のしやすさ」「評価のしやすさ」3点において、STである3名ともにおおむね「そう思う」といった回答を得た。自由意見では、「指導目標が具体的に明記されているので、どこまで支援すればいいかが分かりやすかった」「普段から児童理解について情報交換を行っているが、明文化されることで、指導目標を再確認することができた」「個々に応じて指導目標が設定されていたので、STとして指導・支援がしやすかった」といった感想が寄せられた。また、「重度の児童にとっては、心の動きを読み取ることは指導目標や評価においても大切なところだと思う」という意見があり、自立活動を主とする教育課程の児童の指導目標設定において、気持ちの動きを総称する「関心・意欲・思考」の要素が示されている意義を感じさせられた。

#### ウ 客観的に授業の様子を見て（協議会での内容）

##### 【要素「程度」の分かりにくさ】

・「寝返り運動では、やりたい気持ちや動いた実感を表情や視線等で表す」という目標を見ても、程度と表出が一体化している。当初、「程度」は表出を形容するものとして位置付けたが、「程度」の内容の捉えが人によって違っているのではないかという指摘があった。4要素、特に気持ちの動きを表す「関心・意欲・態度」と「程度」については、研究成果の報告の中で、例を挙げながら、具体的に説明していく必要があると確認された。

##### 【要素「程度」の内容について】

・「サーキット運動では、やりたい気持ちや動いた実感を表情や視線や身振りで表す」という目標においては、「そばにいる教員に手を伸ばす」、「シーツを触る」等、具体的な動作の記述が「程度」になるのではないかという意見が出された。また、このような目標の場合、

身振りや表情で表す「タイミング」（例えば、「寝返りを終えた時に表す」とか、「シーツプランコを見た時に表す」等）を表記することも「程度」の内容として、あり得るのではないかと、その捉え方を整理する必要性が確認された。

#### 4 アンケート調査

##### (1) 抽出された構成要素を活用した個別指導計画の指導目標設定について（MT対象）

具体的な指導目標設定をするための4要素が適当か判断するために研究員の所属校の教員から任意に対象を抽出しアンケートを行った。4要素を意識し、個別指導計画を再考してもらった後、指導目標の設定、評価がしやすいかについて①そう思う②だいたいそう思う③あまり思わない④思わない⑤その他（自由記述）の4段階で評価してもらった。

「4要素を活用すると指導目標は設定しやすいですか？」という質問に対して、教科担当では全体（回答総数 37 件）の 75%（そう思う 30%、だいたい思う 45%）が、自立活動担当では全体（回答総数 7 件）のほとんどが4要素を活用すると指導目標が設定しやすくなったと答えた。また、「4要素を活用すると指導目標の評価はしやすいですか？」という質問に対しては、回答総数 37 件のうち教科担当者の 90%（そう思う 40%、だいたい思う 54%）以上が、自立活動担当者では回答数 7 件であるが、その全員が評価しやすくなったと答えた。

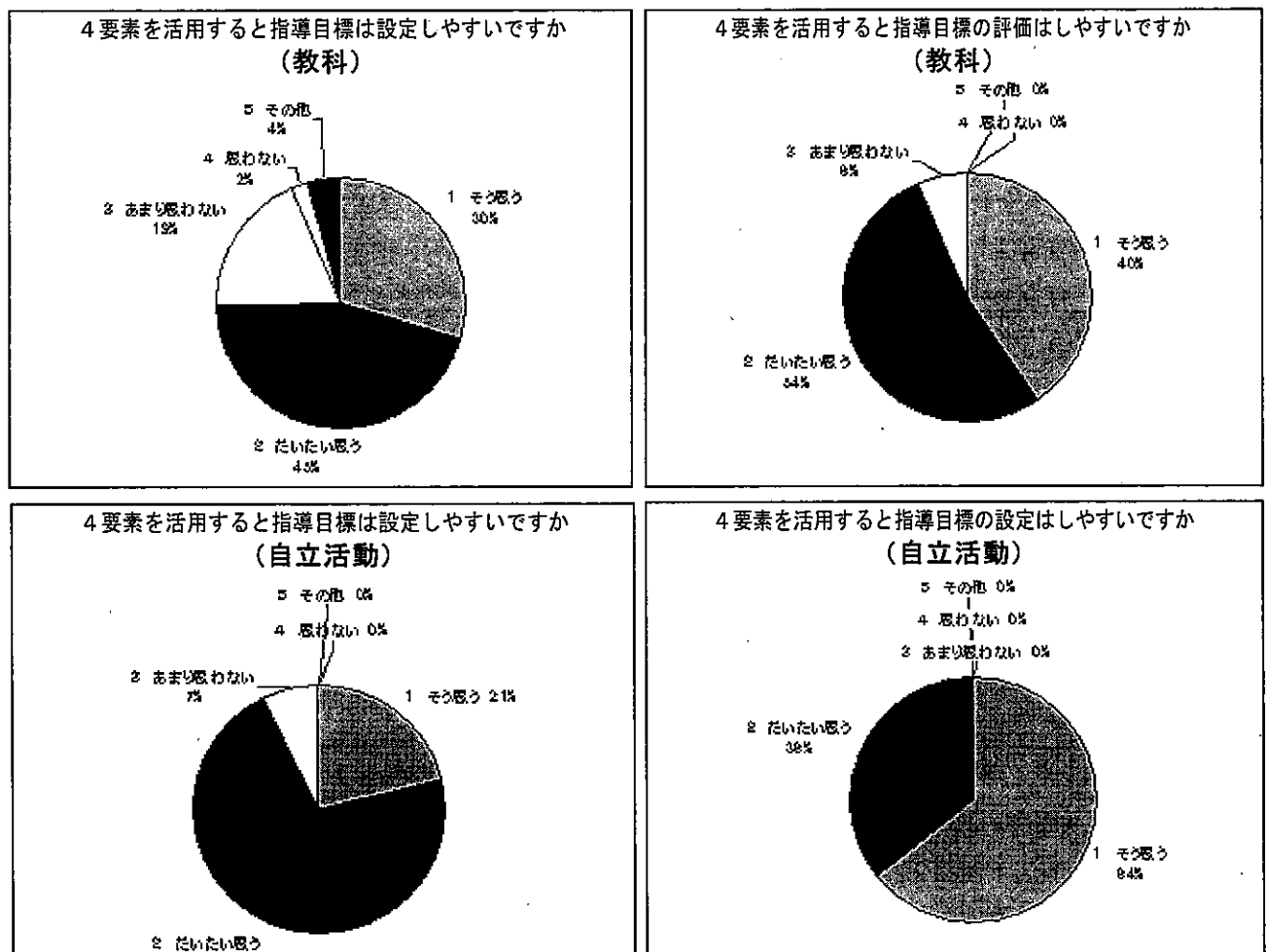


図5 具体的な指導目標の4要素活用結果について



4要素についての意見では、初任者からは「観点があることで考えやすい」「具体的な指導目標があることで授業でも支援しやすかった」、2～4年次の教員からは「自分の中でねらいが整理できた」「スモールステップに気付けた」、5年次以降の教員からは「評価の際に分かりやすい」といった内容が多く見られた。4要素活用後の具体的な事例としてアンケートの一部を次に示す。

教科等	4要素を活用する前	4要素を活用した後
体育	安全に留意し、仲間と協力しながらスポーツを楽しむ。 ⇒ 目標に向かって意欲的に取り組む。	<u>器械運動では、正しい技を理解し、繰り返しの練習の中で連続の技として発表できる。</u>
自立活動	<u>人との関わりを増やす。</u> ⇒	<u>人と「関わりたい」気持ちを高め、教員や友達に近付いて、身体の一部を触ったり、動作で要求を表出したりする。</u>
国語	漢字・語句等の基礎力を向上させる。 ⇒	<u>四級の漢字の読み書きが確実に日常的に行えるようになる。</u>
音楽	いろいろな音楽を楽しみながら感じたことを身体の動きで表現する。 ⇒	<u>歌や楽器演奏を通して、楽しい気持ちや好きな音楽を見つけたことを身体の動きや表情の変化で伝える。</u>

4要素を活用した指導目標では、支援内容が想像できたり、評価する項目が明確になっていたりする。上記の例以外にもアンケートに記入されているものは、大部分が具体的な指導目標になり、他者が読んでも理解、手だてや評価が読み取りやすい内容になっていた。

一方で「考えをまとめるのが難しい」「具体例があると良い」「単元や授業の目標では役立つが、書式の関係で個別指導計画にいかすのが難しい」という意見も見られた。そこで回収したアンケートの指導目標について研究員で更に討議を行った。次に一例を示す。

教科等	4要素を活用する前	4要素を活用した後
家庭科	①作業態度を身に付ける。 ②指示通りに正確な作業をする。 ⇒	<u>調理学習では時間や報告を守るなどの作業態度を身に付け、指示通りに正確な作業をする。</u>

【課題点】〈活用前〉①評価規準となる行動がない。②教科の観点が入っていない。

〈活用後〉「1目標1評価」の前提が守られていない。

【改善例】・調理学習では、作業態度を身に付け、毎回時間や報告を守る。

・調理学習では、道具の扱いに慣れ、指示通りに正確な作業をする。

以上のように、書式の関係や教員の児童・生徒に対する思い等から一文の中に複数の指導目標を設定してしまいがちだが、それでは授業や評価を行う際に目標がぶれてしまう恐れがある。その予防策として一度立てた指導目標を検討し直す際にも4要素に基づいて行くと検討しやすかった。

また、自立活動では心の動きが表しにくいという感想がいくつかあったが、「〇〇しようと」等、文章を少し変えるだけで表せるものが多かった。

(2) 構成要素を活用し設定した指導目標を基に行った授業について（ST対象）

4要素を活用し設定した指導目標に基づき行った授業にSTとして参加した教員を対象としたアンケートでは「以前の指導目標と比べ分かりやすかったか」「児童・生徒一人一人への支援はしやすかったか」「児童・生徒一人一人への評価はしやすかったか」という質問に対して、ほぼ全員が肯定的な評価をしていた。4要素を活用した指導目標によって指導者間の共通理解が図りやすいと考えられる。

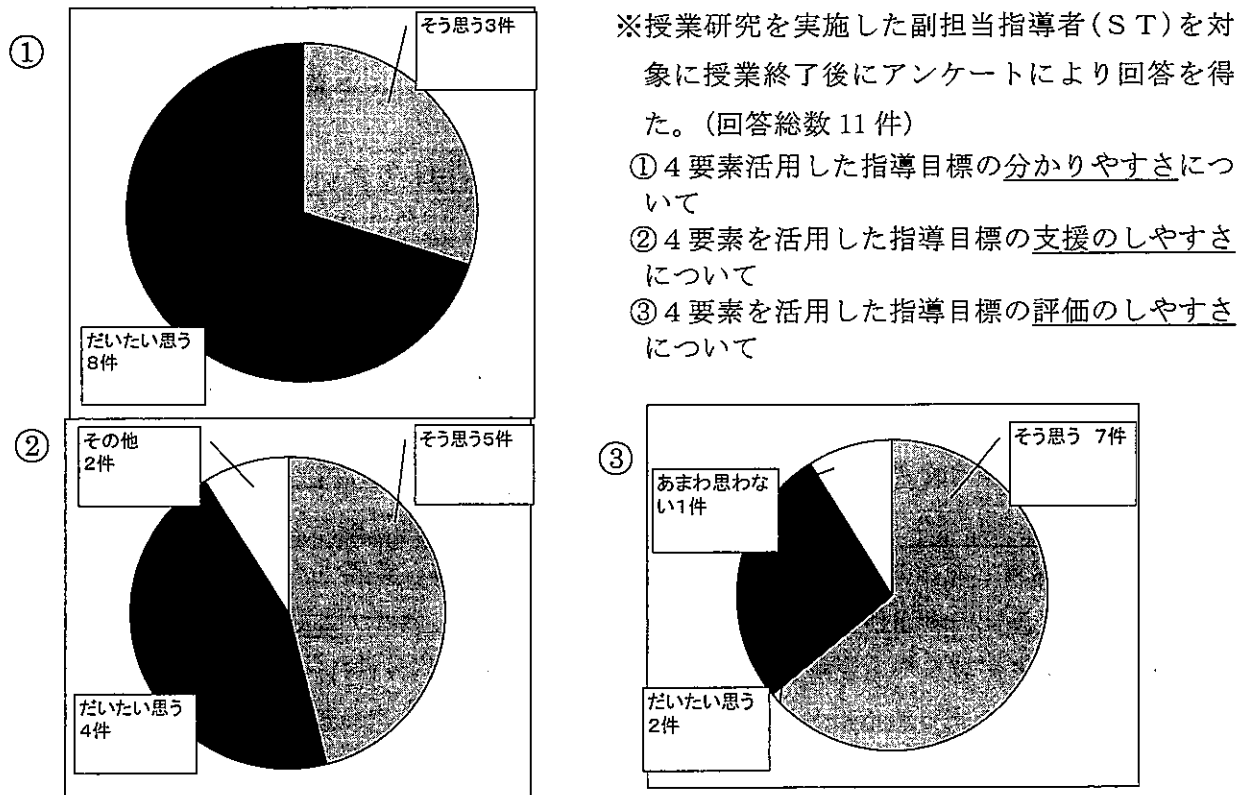


図6 副担当指導者（ST）の4要素を活用した指導目標についての回答

## VI 研究の成果

本研究では、「具体的な指導目標」において必要な四つの要素を事例分析により明確にした。「4要素」を踏まえた指導目標の設定が、児童・生徒一人一人の実態に即した指導を行う上で、また、ティーム・ティーチングの授業を進める上で有効であると考えられた。このことは、本研究の重要な成果である。

「具体的な指導目標」の設定を推進するために、研究で得られた成果を基に「活用シート」を作成した。特別支援学校における校内研修の資料等で活用されることを期待する。

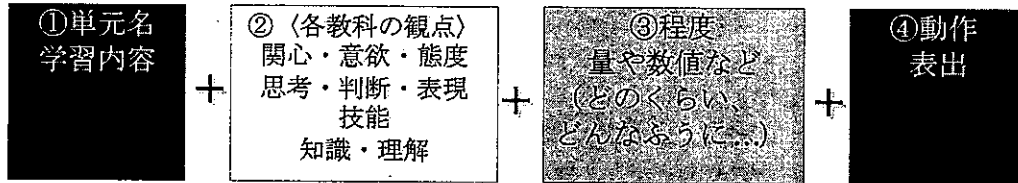
## VII 今後の課題

本研究では「仮説」を踏まえて、授業での検証やアンケート調査を行った。授業検証やアンケート調査は、研究員の所属校で実施されたものであり、非常に限定された条件下での研究である。これらのことを踏まえながらも、本研究で明確にした個別指導計画の構成要素を活用した指導目標の設定が推進されていくことを期待する。

また、今後は、具体的な指導目標と評価を行う時期や間隔の問題や複数の教員で評価を行う際に効率的な校内のシステム作りなど研究していくことが必要である

# 教科の指導目標設定の4要素

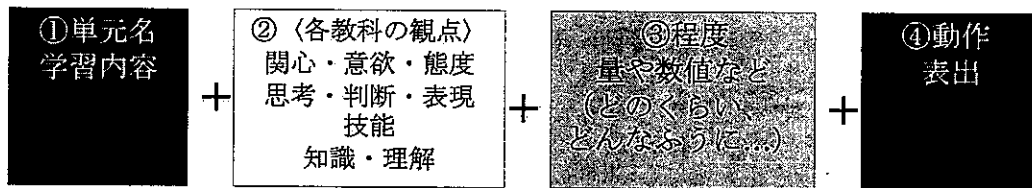
## ■ 具体的な指導目標の設定のための4要素



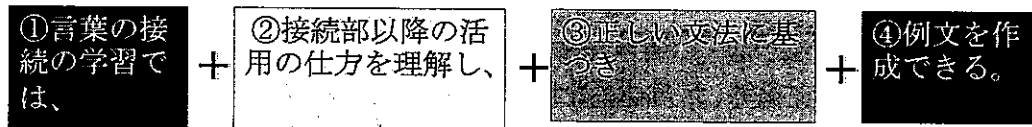
Let's try. この構造で指導目標をたててみよう!!

①では、単元名や学習内容を書き込みます。「絵の具で塗る活動では」「時計の学習では」などとすると具体的な指導場面を限定できます。	②では、その教科の観点を書き込みます。4観点(国語は5観点)のうちの一部を記述して、③と④の動作・表出がその教科の中のどんな視点で目標を考えているのかを示します。	③では、④で示される動作や表出がどのようなものであるかを、数値や量などで表すか、具体的な内容で記述します。③と④は修飾節と被修飾節の関係です。ある一文の中に、動作の記述とそれを修飾する記述があった場合は③と④を兼ねることができます。	④では、具体的にねらいとして想定される動作や表出を記述します。

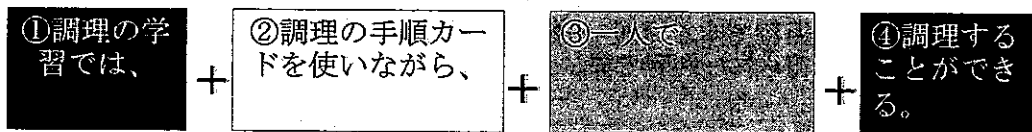
## 1目標 1評価 を原則とする



### 国語の記入例

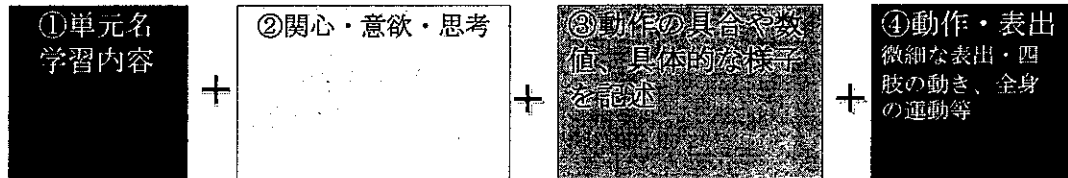


### 生活単元学習の記入例

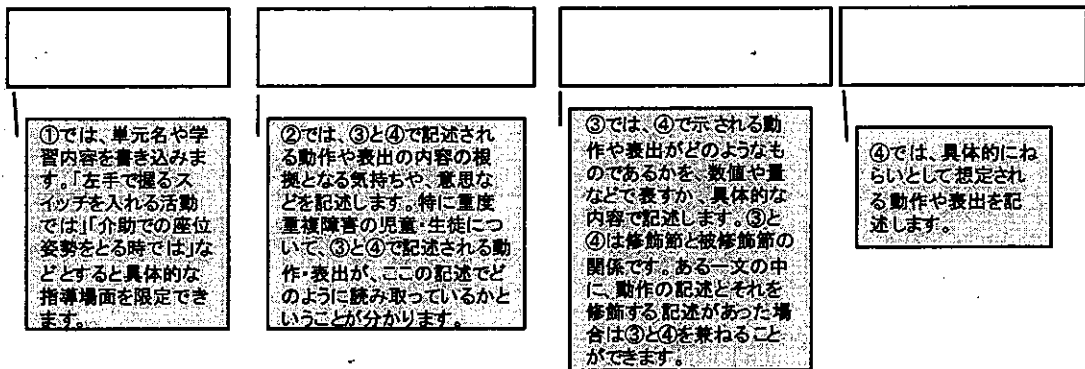


# 自立活動の指導目標4要素

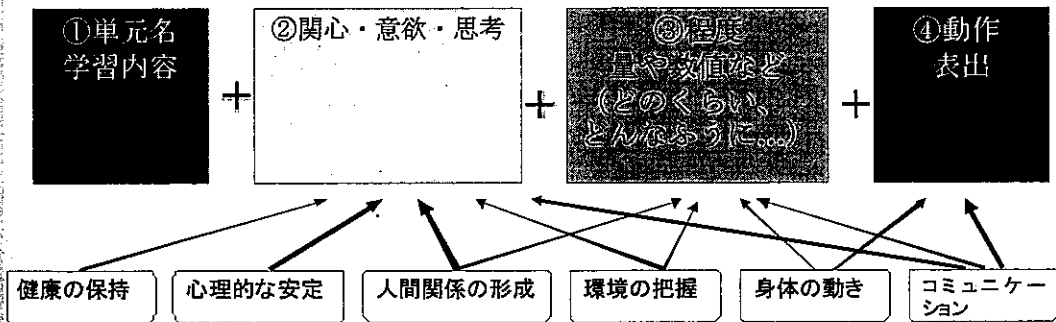
## ■ 具体的な指導目標の設定のための4要素



Let's try. この構造で指導目標をたててみよう!!



## 1目標 1評価 を原則とする



本部会で研究開発した具体的な指導目標の4要素と、特別支援学校学習指導要領における自立活動の6項目との関係を簡単に整理すると上記のようになります。

特に「関心・意欲・意思」とは、行動の根拠と推測される気持ちや心の動きを総称し、6項目の中の「心理的な安定」「人間関係の形成」と深く関わります。自立活動を主とする教育課程で学ぶ児童・生徒の指導目標の設定に当たり、実際の指導目標事例を分析し得られた内容です。各校での活用を期待しています。

自立活動の例



## 平成23年度 教育研究員名簿

### 特別支援学校

(聴覚障害・肢体不自由・病弱グループ)

学 校 名	職 名	氏 名
都立立川ろう学校	教 諭	錦谷 智行
都立葛飾ろう学校	教 諭	鈴木 崇宏
都立北特別支援学校	主任教諭	菅野 孝幸
都立城南特別支援学校	教 諭	古澤 直子
都立村山特別支援学校	教 諭	山之内勇人
都立府中特別支援学校	教 諭	宇野あずさ
都立大泉特別支援学校	教 諭	安藤 梢
都立多摩桜の丘学園	教 諭	◎ 佐藤 匡郁
都立青峰学園	主任教諭	小松 弘喜
都立久留米特別支援学校	教 諭	○ 櫻井 茜子

◎ 世話人 ○副世話人

[担当] 東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課

指導主事 丹野 哲也

